

第3073号

2009年5月25日号

平成21年5月21日刷了

納 税 通 信

経営者のための財務・税務の総合情報紙

景気悪化でも人気の投資商品

世界的な景気悪化の影響で株式などへの投資熱が冷めているが、そんななかでひそかな人気を集めているのがワイン投資ファンド。ワイン投資ファンドは、ヨーロッパで古くからの蓄財方法として知られる投資形態。フランス・ボルドー地方の銘醸ワインなどには、株式と同様マーケットが存在し、売買価格が変動している。ワインファンドでは、これらを若いうちに買い付け、数年間熟成させ、価格が上昇したときに売却し、利益を生み出す。

銘柄ワインだけに、価格が急騰することはあまりないが、その分、急落することも少ないため、安定運用を考える資産家に注目されている。金融商品取引業者でもあり、ワイン投資ファンドの営業者（運用業者）でもある(株)ヴァンネット（東京・品川区、代表取締役社長＝北田朝雪氏）が運用するファンドは、開始から9

安定利回り
「ワインファンド」

年を迎え、毎年1から2銘柄のファンドを立ち上げているが、ほぼ毎年運用総合利回りは、平均120～130%と安定している。運用状況の良い2001年ものでは約165%（2008年9月30日現在）、営業累計利回り約154%となっており、世界不況の煽りを受けた2008年ものも、運用から3カ月足らずだが同約93%、同約101%と頑張っている。

同社では、今年のファンドを6月30日まで募集（<http://www.vin-net.co.jp>）しており、すでに申込みや問い合わせが数多く寄せられている。北田社長は、「投資は、分散によるリスクヘッジが不可欠。そのひとつとしてワイン投資ファンドも有効的だ」としている。